# 生き活き

NO. ９５　令和元年６月号　　岡崎市現職研修生活科広報部発行

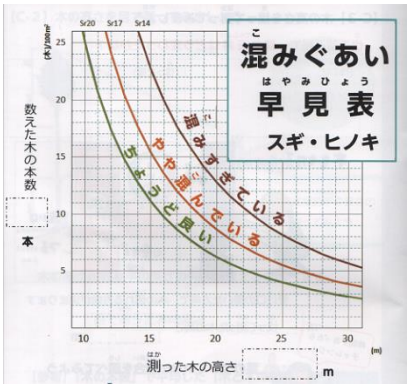
## 「生活科における見方・考え方」

生活科部長　梅　田　康　典

第７０回全国植樹祭が６月２日、尾張旭市で開催されました。天皇、皇后両陛下の即位後、初めての地方公務がこの植樹祭でした。今回の全国植樹祭のテーマは、「木に託す　もり・まち・人の　あす・未来」でした。現地で、このテーマを耳にしながら、私が勤務している形埜小学校の周りの森は、現在どんな状況にあるのか気になりました。

偶然にも次の日、５年生の子供と学校から徒歩で 10 分くらいの森に学習に行きました。講師の方の説明を聞いたあと、ヒノキの人工林に入ったとき、子供が真っ先に言ったのは、「空が見えない」でした。植物の生長に太陽の光が必要なことは、５年生の理科で学習しています。その知識を活用して、日光が届かないことに気付いたのです。そこで、森の健康診断を実施しました。その手順は次のようです。

①100 ㎡の中の木の数を数える。**今回は 13 本**
②それぞれの木の太さを測定し、その平均を計算する。
③平均に最も近い太さの木の高さを測定する。**今回は 17m**
④右のグラフから「混みぐあい」を診断する。




その結果、「やや混んでいる」でした。「ちょうど良い」にするには、木を４本減らす必要があります。これが、いわゆる間伐です。健康診断の過程で、子供は「ヒノキの木は上の方の枝にだけ葉がついている。」「下の方には枝がない。」ことに気付きました。森に入ったからこその気付きです。

新学習指導要領では、生活科の目標にこれまでなかった「見方・考え方」の記述が加わりました。生活科の見方・考え方は、各教科等におけるそれとは少し異なり、身近な生活に関わる見方・考え方です。具体的な活動を行う中で、身近な生活における人々，社会及び自然などの対象と自分がどのように関わっているのかというのが見方です。考え方とは、自分の生活において思いや願いを実現していこうと自分自身や自分の生活について考えていくことです。「見方・考え方を生かす」（他教科等では「働かせる」）とは、子供自身が既に有している見方・考え方を発揮するということです。その学習過程において見方・考え方が確かになり、一層活用されることになります。そのためにも、校外も含め具体的な活動が必要です。熱中症、交通事故、そして水の事故など、校外での活動にはいろいろなリスクが伴います。子供の安全を確保することは、最も重要なことです。時期を見直す、十分な対策をとるなどして、安全に配慮した活動をお願いします。

岡崎市の面積の約 60％が森林です。その森林が健康であることは、街の生活や人の未来とつながっています。それぞれの学校で、身の周りの人や、自然、社会など、身近な生活と関わりをもった実践を、ぜひお願いします。